「竹久夢二、作品と俳句」-其の肆



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1923-Deep_River.png
セノオ楽譜の『米國名歌 深い河』の表紙 1923 年 夢二郷土美術館

明治末期から大正時代に活躍し「大正浪漫」を代表する画家・詩人・グラフィックデザイナーであった竹久夢二。

憂いを帯びた「夢二式美人」で一世を風靡し、水彩画・油彩画・木版画、さらにデザインの分野や挿絵まで幅広く作品を残し、詩や童謡など文芸面においてもその才能を発揮しました。
大流行した「宵待草」は夢二の作詞によるものです。

恋多く、漂白の人生を歩み、現在においてもその軌跡は注目されています。

〈1884 年-1934 年（明治 17 年-昭和 9 年）〉
昭和 9 年 9 月 1 日没。49 歳 11 か月の生涯を閉じる。

「季語に遊ぶ」今回は「竹久夢二・作品と俳句」其の肆として大正五年から昭和二年の間に描かれた「セノオ楽譜」から今回も 3 作品を紹介し、その作品に合う俳句を選びました。

「セノオ楽譜」は、妹尾幸陽（せのおこうよう 本名 幸次郎：1891-1961）が洋の東西の名歌のかずかずを、古きも新しきも問わず紹介するためにはじめた音楽出版社の出版物です。
この楽譜は、夢二の他にも有名画家である杉浦非水や岡田九郎なども腕をふるいました。

出版された多くの曲が、今も演奏され続けています。
それは選曲がよかったということでしょう。

また一方で、西洋音楽の大衆化に大いに貢献した楽譜でもありました。
当時、ピース 20 銭から 30 銭という手頃な価格で購入できました。

夢二は大正五年（1916 年）から昭和二年（1927 年）の間に、280 枚のセノオ楽譜の表紙画を描いています。
浮世絵、デフォルメした心象画、目のさめるような抽象画、大胆なデザイン画など、さまざまな分野、手法を駆使し、歌の心を描いて今なお古さを感じさせません。
また、タイトルのレタリングにもすぐれた感覚と創意工夫をみることができ、グラフィックアートの先駆者といえます。

お楽しみください。

1.『宵待草』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1924-Senowo-Yoi_Machi_Gusa.png
セノオ楽譜の『宵待草』の表紙 **1924** 年版 東京国立近代美術館

1.『宵待草』

竹久夢二が「宵待草」と歌詞に綴ったのはどのような植物だったのでしょうか。

植物学上では「宵待草」という名前の植物は存在せず、おそらく「待宵草」と呼ばれる植物ではないかと考えられています。

待宵草（マツヨイグサ）は北アメリカ原産のアカバナ科の一年草で、夕暮れになると黄色い花を一斉に咲かせます。

いかにも夜が来るのを待ちわびたように、折りたたまれた花を肉眼でもわかるスピードで連続写真のように開くのです。

では何故待宵草は夜に花を開くのでしょうか。
それはライバルとなる花は夜開く種類は少ないので､夜の虫を独占できるからだと考えられています。
マツヨイグサはスズメガという蛾に花粉を運んでもらっています。

待宵草は夏の夕暮れを待って黄色い花を咲かせ、翌朝にはしぼんでしまう「一日花」です。
色は明るいですが、どこか淋しげで人恋しい風情があります。

50 年足らずの短い生涯にわたり恋多き夢二でしたが、実ることなく終わったひと夏の恋によってこの詩は作られました。
夢二は花の特徴を踏まえて、儚い恋を象徴するかのように作詞しています。

また、表紙のタイトルに関しては夢二自身の自筆記録（大正 9 年、日本近代文学館蔵、紙に墨書）においては「待宵草」と記されています。

セノオ楽譜の表紙も版によって「待宵草（初版～ 4 版)」、「宵待草（5 版以降)」の異なる 2 種類の表記があります。
ある時期から夢二自身が音感の美しさにこだわって「宵待草」としたのではと解釈されています。

原詞とマツヨイグサの写真を掲げておきます。

「宵待草」原詩

遣る瀬ない釣り鐘草の夕の歌が
あれあれ風に吹かれて来る
待てど暮らせど来ぬ人を
宵待草の心もとなき
想ふまいとは思へども
我としもなきため涙
今宵は月も出ぬさうな



マツヨイグサの写真

さて、「待宵草」は江戸時代に渡来し、昭和の初め頃までは野生化し、多く見られましたがその後はあまり見られなくなりました。

また、「待宵草」と同じように、夕方に白い四弁花を咲かせる「月見草」と呼ばれる植物があります。こちらもアカバナ科の一年草で、江戸時代に渡来し観賞用に栽培されましたが、野生化せず現在はあまり見られなくなりました。

植物学上では月見草と待宵草、宵待草は別のものとされていますが、一般には待宵草も宵待草も月見草といって通っています。

ここでは晩夏の季語である「月見草」、「宵待草」を詠んだ句を取り上げました。
俳句では圧倒的に「月見草」で詠まれた句が多いです。

月見草別れてのちの山霧は

臼田亜浪

洗髪（あらいがみ）乾きて月見草ひらく

松本たかし

月見草夕月よりも濃くひらき

安住　敦

月見草はなればなれに夜明けたり

渡辺水巴

酔ひながら宵待草に染まりけり

榎本好宏

2.『白鳥』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Yumeji_Schwan.jpg

セノオ楽譜『白鳥』の表紙 1925 年 金沢湯涌夢二館

2.『白鳥』

歌曲「白鳥」はエドヴァルド・グリーグ（1843 ～ 1907）がノルウェーの劇作家ヘンリク・イプセン（1828 ～ 1906）の詩に曲をつけた作品で、1894 年から 1895 年頃に作曲された『6 つの詩』Op.25（第 2 曲）に収められています。

静謐（せいひつ）で透明感あふれる北欧の抒情が美しく表現され、グリーグの歌曲の中でもこの曲はひときわ美しい名曲です。

冒頭は静かに湖面を滑る白鳥を描写するように起伏の少ないメロディが展開されます。

ピアノ伴奏は、和音がシンコペーションで繰り返され、これにより水面を静かに進む白鳥の姿と、どこか不穏で張り詰めた緊張感が演出されています。

半音階が多用され、白鳥が住む幻想的で霧が深い湖の情景を浮かび上がらせ、グリークが得意とする透明感のある美しい響きが特徴です。

曲の終盤、「歌うとき、あなたは死を迎えました（ja,da sangst du!）」という部分で、それまでの静寂から一転してフォルティシモ（非常に強く）の激しいクライマックスを迎えます。

静から動への急激な変化によって、生涯でたった一度、死の直前に最高に美しい声で歌うといわれる白鳥の「生の絶頂と消滅」を劇的に描き出しています。

グリーグはこの「白鳥」に「普段は口数が少なく、自身の内面や芸術によってのみ本当の声をあげる」と述べ作曲者・芸術家としての自分自身の信条を重ね合わせていたと推察されています。

ヘンリク・イプセンの詩の意訳は次のようなものです。

私の白鳥よ
あなたは一言も語らず
ただ静かに滑るように
輝く湖を通り過ぎて行った

その深く澄んだ瞳は
何かを語りたがっているようだったが、
ついに一言の言葉も、
その唇からこぼれる事はなかった

私の心に秘めた想いも
あなたの沈黙と同じように
深く、静かに閉ざされたままだった

しかし、終わりの時が訪れた
あなたが命の灯火を消すその瞬間
あなたは初めて、美しく輝かしい歌声を響かせた

あなたは歌いながら、息を引き取った
その歌声は、死の瞬間にしか聞かされなかった
本当のあなたの姿だったのだ

ああ、あなたは本物の白鳥だったのだ

ここでは「白鳥」を詠んだ句を選びました。

「白鳥（はくちょう）」晩冬

カモ科ハクチョウ属の水鳥。
大白鳥、小白鳥はアジア北方やシベリアで繁殖し、主に北日本や日本海側の湖沼や海湾で越冬します。

春になると少しずつ北へ移動しながら北方へ帰ってゆきます。

飛翔するその姿のよさや水上を動きまわる姿の良さから、古来より特別視されてきました。

倭建命（やまとたけるのみこと）が死後に白鳥になった話は有名です。

白鳥といふ一巨花（いちきょか）を水に置く

中村草田男

一夜吾（あ）に近寝（ちかね）の白鳥ゐてこゑす

橋本多佳子

白鳥は哀しからんに黒鳥も

高屋窓秋

火の鳥となる落日の大白鳥

古賀まり子

白鳥のもわもわキスのもわっもわ

坪内稔典

私も詠んでみました。

翔んで白舞いおりて白大白鳥

白井芳雄

3.『米國名歌 深い河』



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TakehisaYumeji-1923-Deep_River.png
セノオ楽譜の『米國名歌 深い河』の表紙 1923 年 夢二郷土美術館

3.『米國名歌 深い河』

『深い河』は黒人霊歌『Deep River』の日本語歌唱用ピース楽譜です。

原曲の『Deep River』は、アメリカの伝統的な黒人霊歌をクラシックのバリトン歌手ハリー・バーリーが合唱・独唱用に編曲した作品で、静かで祈りに満ちた旋律が日本でも広く親しまれています。

歌詞に登場するヨルダン川には、主に二つの重要な意味が込められています。

一つは聖書の『出エジプト記』に由来する約束の地への境界と、苦難を乗り越えて神の国へ向かう旅路を表現しています。

もう一つは奴隷制からの開放を象徴する「自由な土地、奴隷制のない土地（アメリカ北部やカナダ）への境界」を「オハイオ川」などを「ヨルダン川」に見立て、渡れば自由になれるという希望を意味します。

また、奴隷主には宗教歌に聞こえながら、仲間内では脱走の合図やルートを示す手段でもありました。

英語の歌詞と日本語の訳詞をあげておきます。

Deep River

Deep river, my home is over Jordan.
Deep river, Lord, I want to cross over into camp ground.
Oh, don't you want to go to that gospel feast.
That promised land where all is peace.

深い川

深い川よ、私の故郷はヨルダンのかなたにある。
深い川よ、私はお前を越えて、仲間たちの元へと帰りたい。
おお、お前もあの福音の宴に行ってみたいとは思わないか？
そこでは、すべてのものが平和であることが約束されているという。

「https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=深き河&oldid=82140591」から取得

「深い河」イコール「大河」ともいえますので、ここでは「大河」プラス季語で詠まれた句を四季順に選びました。

聖木曜日（せいもくようび）大河に白き鳥一羽

市村栄理

季語「聖木曜日」で晩春

聖週間の木曜日のこと。
処刑を予知したキリストが 12 人の弟子たちと最後の晩餐をおこなった日です。
晩餐の前に、キリストが弟子たちの足を洗ったので「洗足木曜」ともよばれます。
また、晩餐会で、パンはキリストの体で、杯のワインはキリストが流す契約の血であるという聖体の礼典を制定したとされます。

五月雨や大河を前に家二軒

与謝蕪村

季語「五月雨」で仲夏

旧暦五月頃に降る長雨なので「五月雨」と呼びます。
梅雨が雨そのものと気候の両方をさす場合かあるのに対し、五月雨は雨のみをさします。
五月雨は田植えどきの雨であり、稲作にとっては重要な雨です。
現在では、梅雨が近代的な印象があるのに対し、五月雨は、雅（みやび）な季語と言う印象があります。

芋秋（いもあき）の大河にあらへたびごろも

飯田蛇笏

季語「芋秋」で三秋

「芋」は東南アジアの原産。
俳句では単に芋といえば里芋をさします。
わが国への渡来は古く、前 2 世紀頃といわれています。
奈良時代には栽培が始まっていて、山芋と区別するために里芋と呼ばれるようになりました。
種芋を植えつけ太らせ、親芋を作り、それからさらに子芋、孫芋ができ、それらを食用にします。
品種によって親芋や子芋など、食べる部分が異なります。
子芋を皮のまま茹でたのが衣被（きぬかつぎ）です。

枯葦（かれあし）や大河は持たぬ川の音

中村明子

季語「枯葦」で三冬

葦（蘆）は、水に恵まれた日本に豊かに生い茂り、中空で堅い茎は簾（すだれ）や葦簀（よしず）などの原料にされるなど、古来より暮らしとも関わりの深い植物です。
青々とした夏の「青蘆」、野性味を感じさせる仲秋の「蘆の花」、晩秋の「蘆刈り」など、四季折々の季語も豊富です。
冬が深まると、美しかった穂も葉も枯れ落ち、ところどころ折れた茎が冷たい風にさらされています。
「枯蘆」のいかにも寂しくわびしさが募る風情です。
枯蘆の間には、小鳥が宿っていることもあります。
春には朽ち葉の下から、角のような青い芽が顔を出します。

行く年の大河を渡る鳥の影

仙田洋子

季語「行く年」で暮

年の終わりの感慨です。
年末とか年の瀬とかの言葉には、慌ただしく感じられるものが多いです。
しかし、この季語には、過ぎゆく年を惜しむ気持ちが込められています。
年に「行く」という擬人化の動詞を添えることで、人の日常に経過する時間ということを顧（かえり）みさせるからでしょう。
NHK の紅白歌合戦が終わり、外から除夜の鐘が聞こえると、にわかに畏（かしこ）まった気分になります。

私も詠んでみました。

わが内に大河もちへず冬隣

白井芳雄

季語「冬隣（ふゆどなり）」で晩秋

秋も終わりに近づき、冬を隣にする時期をいいます。
日差しも弱くなり、朝夕にとどまらず、日中もそろそろ冷えてきます。
そしてこの頃から生活全般の準備とともに、心も冬支度をはじめる時期となります。
人生においても晩年に入り、来し方を振り返り今後の生き方を見つめなおす時期ともいえます。

主な参考文献、出典：著者　小川晶子
『もっと知りたい竹久夢二　生涯と作品』（東京美術）（2009 年）
ISBN978-4-8087-0839-9 C0071

編者　竹久夢二美術館　石川桂子　谷口朋子
『竹久夢二のおしゃれ読本』（河出書房新社）（2005 年）
ISBN4-309-72744-1

著者　王文萱　　翻訳　藤原由希
『竹久夢二の世界　美人画からモダンデザインまで』
（パイインターナショナル）（2024 年）
ISBN978-4-7562-5821-2

編集人　高橋洋二
『別冊太陽　No.20　AUTUMN’77』（平凡社）（1977 年）
ISBN4-582-92020-9

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008 年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア（Wikipedia）

最後までお読みいただきありがとうございました。

（株）技術情報センター　メルマガ担当　白井芳雄

株式会社 技術情報センター　〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL：06-6358-0141　FAX：06-6358-0134　E-mail：info@tic-co.com